2023年度　裁判所事務官（一般職）
小論文
講評＆解答例

LEC 東京リーガルマインド

0 001112 227248

KL22724

頒布・複写を禁じます

問　題

チームワークの重要性について述べた上で、現在の社会を取り巻く状況を踏まえて、職場においてチームワークを高めるために考えられる方策を論じなさい。

論　点

1　チームワークの重要性

2　１が重要となる理由

3　１、２を前提とし、現在の社会を取り巻く状況を踏まえた職場においてチームワークを高めるために考えられる方策

解答例

チームワークとは、集団の力を最大化するため、構成員が目標を共有し、相互の言動に配慮しながら遂行されるチームの諸行動を指す。とりわけ組織においてチームワークが重要となる理由として、構成員一人ひとりが有するスキルや経験だけでは解決できないことが達成可能となり、個人の力を超えた成果を生み出せることが挙げられる。ましてや、情報通信技術の目覚ましい発展等によって組織を取り巻く環境変化の速度が加速化し、組織が直面する課題の高度化、複雑化も進む現在、組織が持続的成長を遂げるためには、性別、年齢、人権や国籍、考え方や価値観等が異なる多様な人材の能力を最大限に発揮できる環境を整備することで自由な発想を生み出し、組織の生産性や競争力を高めることが求められるようにもなっている。人材の多様性は新たな発想やイノベーションの創出にも結びつくものであり、チームワークの強化は組織の競争優位を高める上でも必要な要素だと言える。

では、職場においてチームワークを高めるため、いかなる方策をとることが重要であるか。

第１に、構成員が目標を共有することである。職場に多様な人材が集まれば、文化や価値観、物事の考え方等も多様になると捉えられる。構成員の考えがぶつかった時や行動に迷った際、職場内で目標が共有されていなければ、各人が個人の意思を優先して行動する可能性が生じる。しかし、それが職場目標と一致していない場合、有害な結果をもたらしかねない。それを避けるためにも、職場目標、ならびに、それを実現する行動指針を構成員各人が共有していることが肝要となる。

第２に、誰もが自由に意見を出し合える環境を作ることである。考え方や価値観の違う者同士の視点を組み合わせれば、高度化、複雑化する未知の課題に対しても包括的かつ詳細に判断することが可能となる。その実現には、構成員各人が意見やアイディアを忌憚なく発言できる職場風土の存在が不可欠である。各人が有益な情報を持っていても、それが共有されなければ、最善の意思決定を行えない可能性が高まる。職場風土の多様性を保つためにも上記のような環境づくりが求められる。

頒布・複写を禁じます

この環境を作るためにも第３に、それぞれの人材が有する独自の価値を受容することである。構成員各人が自分の考え方や価値観が職場で尊重されていると認識していなければ、忌憚なく自らの意見を発言することもないだろう。例えば、昔の経験を語ると疎まれると考え、有益な意見や情報の共有を高齢者が控えるといった場合が当てはまる。人材の多様性が職場の意思決定に活かされ、最善の判断を行いやすくするためにも、構成員各人の独自の価値が職場内で認められることが必要である。

これらの方策を実施することにより、考え方の異なる多様な人材を活かす職場風土が形成され、チームワークも高まると私は考える。

以　上

（1,165 字）

講　評

難易度：Ａ［易問］

近年、出題分野が一定しない傾向にある裁判所事務官・小論文試験であるが、本年は４年ぶりに「現代社会における組織運営」と関わる分野の出題となった。とはいえ、長期的傾向で見ればこの分野は頻出分野であり、取り組みやすい課題であったと捉えられる。

出題意図に応える点での評価の分かれ目は「現在の社会を取り巻く状況を踏まえ」た論述がどれだけ行えているかという点になるだろう。この点を踏まえた職場内チームワークを高めるための方策として、【解答例】にある内容の他、仕事と育児・介護との両立を求める者や高齢者、外国人労働者が増加傾向にある中での方策、情報化の進展に伴って非対面型のコミュニケーションが発達している中での方策等を論じることも可能である。論点の構想が行いやすい課題である分、上記の出題意図に応えた上で、最終的な評価の分かれ目は、論理性、具体性の高い論述がどれだけ行えているかという点になると考えられる。

LEC 東京リーガルマインド

著作権者　株式会社東京リーガルマインド
(C) 2023 TOKYO LEGAL MIND K. K., Printed in Japan
無断複製・無断転載等を禁じます。

KL22724